

第3次福岡市食育推進計画の「目指す姿」と「具体的な目標値」及び説明

第3次福岡市食育推進計画	区分	具体的な目標値についての説明
目標(目指す姿) 具体的な目標値案(世代に特化した目標) ☆:国の目標値と同じ	○意識系 ●データ系	重点課題である「ライフステージに応じた食育を推進しよう」については、世代を限定した目標値を設定することで重点化する
(重点)1人ひとりの実践と、関係団体のネットワークを充実しよう ☆食育に関心を持っている市民の割合	○	・1人ひとりの実践をすすめるためには、関心を持ってもらうことが重要なので、目標値として設定する ・関係団体のネットワークの充実について目標値(数値)を設定することはなじまないため、目標値(数値)は設定せず、具体的な取組で評価する(ボランティアの数の増加はネットワークの充実とは違うと考える)
充実した朝食を毎日食べている (こどもの朝食をどうするか)	○	・市2次計画では、3歳児、小学生、中学生、高校生と数値目標を設定している。 ・市2次計画では年代・性別ごとに目標を設定していたが、20～30歳代とまとめ「若い世代」として目標を設定する。
☆朝食を毎日食べる20～30代の割合	○	・朝食の定義を示した設問とする(国にあわせる) ・朝食の具体的な内容については「実態把握」ということで数年おきに確認する。
バランスのよい食事をとっている ☆主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	○	・市2次計画では「バランスのよい食事」の指標を「野菜を毎食食えること」でみていたが、3次計画では「健康な食事」として国から示されている「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」の摂取状況について確認する。
☆主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている20～30代の割合	○	・野菜(副菜)の摂取が少ない若い世代については別途目標値を設定し、推進につとめる。 ・低栄養の予防が必要な高齢者(年代を設定する)についても別途目標値を設定し、推進につとめる
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている高齢者の割合	○	・国は「食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む食品企業の登録数」を目標値に設定しているが、市町村の計画に同様の項目を入れる必要はないため、設定しない。
生活習慣病の予防や改善のために、食生活に気をつけ、実践している ☆生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食生活に気をつけて実践している市民の割合	○	・「適量(エネルギーの調整)」「減塩」「脂肪の質と量の調整」「甘いものを取り過ぎない」「野菜の摂取」についての実践状況を確認し、3項目以上について「実践している」「ときどき実践している」と回答した割合を集計する。(単純に、実践しているかどうかの設問は回答がしにくい ため)
生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから食生活に気をつけて実践している40～50代の割合	○	・生活習慣病の予防改善が特に必要な40～50年代について別途目標値を設定し、特に推進に努める
食塩の取り過ぎに気をつけ、実践している 食塩を取り過ぎないように気をつけ、実践している市民の割合	○	・高血圧の予防や改善に不可欠であり、個人の取組みだけでなく社会全体の取組みが必要である「減塩」について、個別に目標値を設定し、推進につとめる。
よく噛んで食べている ☆ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	○	・「食べる速さ」と「よく噛んでいるか」についてそれぞれ確認する
食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している 食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している市民の割合	○	・「食品の表示を確認しているか」「生肉を食べていないか」「手洗いをしっかりしているか」など、食の安全に関する7項目について、4項目以上を「実践している」「時々実践している」割合として集計する
☆食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している20～30代の割合	○	・若い世代について別途目標値を設定し、若いうちからの実践を推進する
福岡産のものを積極的に利用している 市内産、県内産の農林水産物を買うようにしている市民の割合	○	・地場産(市内産・県内産)の農林水産物の利用について、「消費側」の状況として家庭・学校給食での利用状況、「提供側」の状況として優先利用事業者の登録数とし、「消費側」「提供側」それぞれの目標値を設定する。
☆学校給食における利用割合	●	
ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者の登録数	●	
農林漁業体験をしたことがある ☆農林漁業の体験をしたことがある市民(世帯)の割合	○	・国と同様の目標値とする
環境に配慮した食生活を送っている ☆食品ロスを軽減するために何らかの取り組みを行っている市民の割合	○	・国と同様の目標値とする
郷土料理や行事食を取り入れ、次世代に伝えている 学校給食における郷土料理・行事食の提供回数	●	・郷土料理や行事食を次世代に伝える機会である家庭、学校給食において、どの程度取り入れられているかを目標値に設定する。
ふだんの食事に行事食や郷土料理を取り入れている市民の割合	○	・若い世代について別途目標値を設定し、若いうちからの実践を推進する。
ふだんの食事に行事食や郷土料理を取り入れている20～30代の割合	○	
家族や仲間と楽しく食事をしている ☆地域等で共食したいと思う市民が共食する割合	○	・国と同様の目標値とする。(福岡市は単身世帯が多いため、家族との共食は目標値には設定しない)
食事の基本的マナーが身についている (幼児～学齢期を対象としたデータがあれば…例:保育計画の中での実施回数などでも)	●	・食事の基本的マナーについて次世代に伝える場面での伝達状況を目標値とする。把握可能な目標値として、保育所における保育計画の中での教育回数などが考えられる。